

# 協働によるまちづくり

## ～町内会・自治会編～

市内には、380を超える町内会・自治会などがあり、地域性を生かしてさまざまな活動をしています。中には、企業や大学など一緒になって活動することで、より良い効果をもたらしている取り組みも。今回は、協働による活動の事例を紹介します。

【問】市民協働推進課 ☎626-7535

### 南大通二丁目町内会 防犯防災安全部

#### 地域の企業と連携して、 防犯・防災活動を実施

働く世代の皆さんが町内会の活動に参加して、町内を明るくしてくれています。今後も和気あいあいと活動を続けていきたいです



南大通二丁目町内会  
防犯防災安全部部長  
大畑 正二

南大通二丁目町内会は、町内にある企業と一緒に防犯・防災活動に取り組んでいます。きっかけは、平成16年に町内会で新たに「防犯防災安全部」を設置したことです。住民の高齢化もあり、活動に不安を抱えていたことから、企業にも活動に協力してもらえないかと考え、一軒一軒訪問して協力を打診。金融業や飲食業など、呼び掛けた全ての企業から快く引き受けてもらい、地域住民と一緒に活動する体制をスタートさせることができました。活動は防犯パトロールや登下校



時の子どもの見守り活動、雪かきなど。従業員の皆さんは人事異動があり、人の入れ替わりがありますが、継続的に協力が得られています。また、防犯・防災活動に限らず、町内の草取りなどにも積極的に参加してくれています。夏祭りや舟っこ流し、秋まつり、球技大会など町内会の行事に参加する人もいて、働く世代の人たちが地域活動の担い手として一役買っています。従業員の皆さんが参加してくれることで、町内の若手も参加しやすくなることを期待し、これからも活動を継続していきます。

転勤により、さまざまな地域を回りましたが、町内会活動に関わるのは初めて。地域の一員として恩返しをしていきたいです



盛岡南大通郵便局  
局長  
工藤 和史

### 猪去自治会・ 猪去地区農地水環境保全会

#### 多様な主体と連携して、 クマを寄せ付けない対策を実施

大学生らが精力的にクマの被害対策に協力してくれるので、住民のやる気にもつながります。今後も地域全体の問題として、多くの住民が活動に参加するよう取り組んでいきたいです



猪去自治会  
会長  
山口 弘



猪去地区は住民の約3分の2が農家で、長い間クマによる農作物被害に悩まされていました。平成18年にツキノワグマが大量出没し、市内で26頭捕獲されたときには、半数の13頭が猪去地区で捕獲されました。農家だけの対策では限界を感じていた当時の自治会長が、市に相談し、猪去地区でクマの動向や生息状況などの調査をしていた岩手大学のツキノワグマ研究会と猟友会との連携した取り組みが始まりました。

初めのうちはクマを駆除したい自治会と、保護したいツキノワグマ研究会とは利害が反していることもあって、関係性は良好とは言えませんでした。しかし、年3回の電気柵の手入れや周辺の草刈りなどを一緒にしたり、運動会や敬老会

などの自治会行事に学生を招待することで交流を深め、逆に学生による研修会で住民がクマの生態などを学ぶことで、お互いの考えを理解できるように。また、自治会内でも農家と農家以外では活動への温度差がありましたが、回覧板やチラシなどで農家が困っていることを伝えるなど、情報を共有することで、農家以外の住民も継続的に参加するようになりました。

これらの取り組みが実を結び、同地区でのクマ捕獲数は平成20年からこれまで年に0～2頭で推移していて、農作物の被害も大幅に減少しています。交流を通じて信頼関係を深められたことで、10年以上経過した今でも取り組みは継続しています。

私たち  
地域おこし協力隊!

# 盛岡の魅力、 ソトモノ 目線で 伝えます!



スポーツツーリズム推進室  
木村 有梨 隊員

千葉県流山市出身。活動テーマは「スポーツによる盛岡広域圏の魅力発信と賑わい創出」。イラスト制作が得意。本記事の似顔絵のイラストを作成。

産業振興課 袴田 優樹 隊員

盛岡市出身で東京からUターン。活動テーマは「極寒天国(しばれすとパラダイス)・薮川地域をもっと稼げる地域に!」。薮川の魅力は「清涼な水と空気の大自然が生む高品質な農作物」。

農政課 富岡 美恵 隊員

東京都足立区出身。活動テーマは「金山の里・大ケ生地域における山里暮らしのモデル構築」。大ケ生の魅力は「人・自然・歴史」。

## 地域おこし協力隊とは

都市部の人材を地方の新たな担い手として受け入れ、地域を活性化するための活動などに取り組みながら定住・定着を図る制度です。各隊員は、経験や特技を生かして、新しい発想で活動しています。任期は3年

本市で活動している隊員は現在9人。市外から移住してきたからこそ見える盛岡の魅力・資源があり、隊員だからこそできるまちおこしがあります。今回はそのうち3人の、活動内容や活動に対する思いなどをお伝えます。【問】企画調整課 ☎626-7534

### — 3人は協力隊3年目。

皆さんはどのような活動をしているんですか?

**木村** 私は主に盛岡広域のスポーツイベントに参加して、実際に肌で感じたことを、「**ぱるスポ**」という漫画で発信しています。街中に自然がありつつ、岩手銀行赤レンガ館などの文化財が街の雰囲気や溶け込んでいる盛岡が年々好きになっています!

**袴田** 薮川地域の特産品を開発していて、「サニーショコラライラ」という品種のトウモロコシを育てています。この3年で、地元の人たちの関心の度合いに大きな変化がありましたね。畑の手入れなどをしていると、最初は「若い人が来て何かやり始めたな」など、遠くから見守られているだけだったように思います。作業の合間に雑談したりするうちに、一緒に地域を盛り上げようと賛同し、畑を貸してくれるなど、活動に協力していただけるようになりました。

私は、木村さんとは違いUターンで盛岡に来ました。生まれたところに戻ってきたなという感じで、この地に根を張ろうという気持ちが強いので、住民の皆さんの賛同はとてもうれしいです。

**富岡** 私は、南部曲がり家を借りて生活しつつ、そこを活用し、大ケ生での生活の魅力を発信す

る活動などを行っています。袴田さんと同じで、最初は地域の人たちとの距離があるように思えました。ですが、徐々に活動を知ってもらい、地域の輪に加えてもらえるようになりました。今は、大ケ生の女性たちに昔から伝わるほうき作りを教わったり、私が得意な編み物を教えたりするくらい打ち解けましたね。

### — 思い出のエピソードを聞かせてください。

**袴田** 昨年、いわて盛岡シティマラソンのファンランに出場しました。沿道からの応援が途切れず、たくさんの人から応援されたことが初めてで、心から感動したことを覚えています。「ぱるスポ」の第3巻は、その感動をいろんな人に伝えたいという思いで描きました。ぱるスポを読んで、たくさんの方が盛岡シティマラソンに興味をもってもらえたらうれしいですね。

**袴田** トウモロコシの生産1年目は、理想の味に届かず落ち込みました。その時、同じ品種を育てている生産者の方に「結構評判いいよ。来年も続ければ1年目以上に土がなじんでいい味になるよ」と言ってもらえたので、もう一度同じ品種で挑戦しようとがんばることができました。

**富岡** 50年前の大ケ生は、子どもから大人までたくさんの方が住んでいて、牛や馬を育てる農家も多かったそうです。今とは想像もつかない風景を思い浮かべましたね。近所に住む川村さんから言われた、「東京から来てくれてありがとう」という言葉が本当にうれしかったです。

### — 今年の活動内容と今後の目標は?

**富岡** 今年は、大ケ生産のブルーベリーを県内外の飲食店に卸し、現在10店舗ほどに使用してもらえるようになりました。今後は、さらに販路拡大を進めて、県内外の人たちに「大ケ生」という地域を知ってもらいたいですね。また、来年8月末で地域おこし協力隊の任期を終えますが、その後もこの地と関係を持ち続けて、集落活動のお手伝いをしたり、神楽などの伝統芸能の継承をしていきたいと思っています。

**袴田** 農作業をしたことがない人を対象に、トウモロコシの種まきから、収穫までを体験できるイベントを開催しました。この栽培体験を通して、子どもから大人まで、地域外の人にも薮川の豊かな自然を体感してもらうことができたと思います。ブランド化のためには、まずは3年間、質や生産量を落とさないことが必要ですし、より広く認知されれば本当に良いものとして地域の生産が進むと思うので、これからも挑戦していきます!

**木村** 私はスポーツが苦手で、ランニングのときなどに体がついていけず大変でした。ですが「ぱるスポ」の作成は協力隊だからこそできたことであり、私自身とても良い経験になったと感じています。今後は、盛岡の魅力をもっとPRするために、スポーツに限らずさまざまな情報を発信していけたらと思っています。現在、NPO法人岩手未来機構さんと一緒に、若手漫画家を育成するプロジェクトを進めているので、これからもたくさんの仲間と盛岡の魅力を漫画やイラストで発信していきたいと思っています。

## 仲間のこえ

NPO法人 岩手未来機構  
鈴木 靖子 事務局長

木村さんの描く漫画は、県外出身者の視点で新鮮で、地元では当たり前前のことが実は魅力的なことだと気付かせてくれます。

そのだ つくし 理事(漫画家)

木村さんは、何回やり直しを受けてもめげずに漫画と向き合い、芯をもって活動していると感じます。「ぱるスポ」から伝わるスポーツの魅力もそこからきているのだと思います。



## 地域のこえ

薮川地域  
中館 邦雄さん



栽培体験活動を手伝いました。初めて農作業をする子どもたちの楽しそうな笑顔がとてもうれしかったですね。この機会を作ってくれた袴田さんをこれからも応援していきたいです。

大ケ生地域  
川村 ヒロ子さん



富岡さんが来てから、地域の人と一緒に料理をして食べたり、集まる機会が増えました。地域全体で活動を続け、昔のようなにぎやかな大ケ生にしていきたいですね。